丘友會報

鈴鹿高女・亀山高校同窓会

（亀山市本町1の521 TEL05958—2—1518）

丘友会名簿（第六号）発行

「不明者」調査に理事活躍

昨年は、丘友会名簿第六号が発行されました。丘友会の会員も一万七千人に達する大世帯となり、会員の住所、勤務先の変更等が多く、会員の消息についての情報蒐集には困難を極めました。過去一年余にわたる名簿原稿作成の経過を振り返ってみます。

残部二五〇　購入希望者は事務局へ

まず、名簿第五号に基づき、全会員を対象に個人調査カードを郵送し、返信を求めると同時に、名簿購入及び「丘友会々報」の希望者を募りました。

次に、この基本調査の結果に基づき「消息不明者」の名簿を作成し、これをもとに、校内同窓職員と各卒業回の理事とが中心になって、不明者の調査を行いました。

「消息不明者」の調査に際し、各回の理事の体制を確立することの重要性が再確認され、新たに理事の委嘱を行い、ほとんどの卒業回の理事を埋めることができました。特に今回は、六十周年記念事業で活躍された同窓諸兄姉に理事を引き受けていただいたり、不明者調査に協力していただいたことは、本当にありがたいことでした。

また、全日制に比べて卒業後の消息の異動の多い定時制名簿も、今回は、理事やクラス幹事の皆様のご尽力により、充実した定時制の名簿を作成することができました。

鈴鹿高女の名簿につきましては、次のように整理させていただきました。

(1)二十六回の五年卒業者と四年修了者とを区分する。

(2)二十八回卒業の項を新たに作る。

(3)併設中学修了者の中で、入会希望者については名簿に掲載する。

会員の消息は日々刻々変わっていきます。会員諸兄姉にあっては、ハガキ等を利用し、事務局へ、情報を提供していただきたいと思います。

なお購入ご希望の方は、現在残部が二百五十部程ありますので、事務局へ連絡いただければ幸甚です。代金は、お持ち帰りの場合は三千円、郵送の場合は四千円となっております。

最後に、名簿発行にあたり多くの会員から情報の提供を受けましたことを厚くお礼申し上げます。今後共御協力の程よろしくお願い申し上げます。（事務局）

ごあいさつ

学校長　中川　亮太

四月に着任いたしましてから早くも初夏を迎えました。丘友会の皆様方には平素から母校の発展のために格別のご援助を賜わり感謝いたしております。一昨年の創立六十周年記念事業に結集された同窓各位の絶大なご協力とご援助は、母校として職員生徒一同に深く感銘を与えたことと思います。

亀高は今、騒然たる教育論議の中で、地域の最高学府として同窓各位をはじめ地元市民の期待に答えると共に、二十一世紀を担う若者のために何をなすべきかを学校自身の課題として受けとめ、教師一人ひとりが教育の原点を見据えて指導に当らねばならない時と考えています。

物質的な豊かさに恵まれた現代、忘れられている心の豊かさを見直すため、人間関係の中で大切な挨拶・気くばり・がまん・協調・信頼といった金銭で買えないものの尊さを教育活動の総ての場で認識させ、国際社会に通用する視野の広い人物の育成を願っています。

丘友会先輩各位のご支援とご鞭撻をお願い申し上げます。

総会のお知らせ

第二十七回（昭和五十九年度）丘友会総会を次のように開催します。ぜひご出席下さいますようお願い申し上げます。

なお、これをもって正式通知とし、各会員宛には案内状をさしあげませんのでご了承下さい。

記

一、日時　八月五日（日）午前十時より
一、場所　亀山高校　第一棟大会議室
一、議題
1、五十八年度経過報告・決算報告に関する件
2、五十九年度事業計画・予算案に関する件
3、役員改選の件
4、その他

国鉄お座敷列車「丘友会号」の旅に参加して

天野　せつ子

亀山高校も創立六十周年を記念し、その重みと共に更に二十一世紀にむけて充実・発展してまいりました。同窓生の皆様方は各界でますます活躍されております。

丘友会の総会も例年八月に実施されますが出席者も限られがち。何とか同窓会の連帯・活性化をはかる手だてについて、役員会でも話題となっておりました。

折しも国鉄主催のお座敷列車「丘友会号」が企画され、クラス会の総集版として一泊二日の旅が実施されました。

三月二十五日朝九時三十六分、校歌が流れるなか列車は亀山駅をあとに、一路那智・勝浦へと出発しました。「まあお久しぶり」「私誰だかわかりまして」上級生として親しんだあの人、この人、何年ぶりの再会でしょうか。動く日本間は忽ち同窓会場に早代りです。

国鉄の助役さんをはじめ、添乗員の方々の心あたたまるサービスは、旅のムードを一層盛りあげてくださいました。

紀の松島をめぐり、一夜の宿「なぎさや」での生き造りに舌づつみをうちつつ、湯けむりにひたりながらの話題のやりとりは一段と熱をおび、夜の更けるのも忘れて若き日の語らいが続きました。

翌二十六日那智大滝へ向い、深い原始林を割って落ちる滝の落差に感動しながら、青岸渡寺への石段をのぼりました。

那智大社での祈願をあとに、おみやげを両手に新宮駅十二時四十二分帰路につきました。

会員一同、日頃のウサを忘れ、なつかしい学生時代に思いをはせたひとこまでした。

参加された会員のなかには、又もう一度「丘友会号」に参加したいという要望も沢山いただいております。

次回の丘友会号は、参加された皆さんのアンケートを参考に昭和六十年二月二十六、二十七日に天橋立へ行くことに決定しました。奮ってご参加ください。

母校教職員の異動

◉転入	校長	中川　亮太
教頭	〃	石薬師　修
〃	〃	秋津　朝明
〃	〃	大村　二朗
〃	〃	日市工業高校長
〃	〃	粥見　英敏
〃	〃	小西　恭弘
〃	〃	深井　千尋
〃	〃	伊南　紀子
〃	〃	家城　文子
〃	〃	菊山加代子
〃	〃	中井　芳雄
〃	〃	藤谷　朋子
〃	〃	藤井　宏明
〃	〃	神戸高事務長
〃	〃	鈴木由美子
主事	〃	中井　採用
事務長	〃	藤井　宏明
企画調整部総務課	〃	鈴木由美子
教諭	〃	神戸高事務長
教諭	〃	菊山加代子
教諭	〃	家城　文子
教諭	〃	深井　千尋
教諭	〃	小西　恭弘
教諭	〃	粥見　英敏
教諭	〃	大村　二朗
教諭	〃	秋津　朝明
教諭	〃	石薬師　修
教諭	〃	中川　亮太
◉転出	教頭	大谷　仁
教諭	〃	石薬師高校長
教諭	〃	家崎美和子
教諭	〃	久居農林高校長
教諭	〃	辻　俊夫
教諭	〃	神戸高
教諭	〃	冨士　惠子
教諭	〃	井上　商高
教諭	〃	東野　商高
教諭	〃	古久　弘之
教諭	〃	川　芳彦
教諭	〃	四日市商高
教諭	〃	百地香代子
主任主事	〃	計量検定所
◉昇任	全日制教頭	加藤　信大
定時制教頭	〃	岩村　麗陽
◉退職	定時制教諭	菊田　栄一
校長	〃	長岡　昭一
事務長	〃	木村　齊
常勤講師	〃	宮崎　次郎
		北川　誠

退職のごあいさつ

長岡　昭

丘友会員の皆さん、ご健勝にお過しのこととお喜び申し上げます。

さて、私こと、本年三月をもちまして、亀山高校を最後に退職いたしました。

会員一同、日頃のウサを忘れ、なつかしい学生時代に思いをはせたひとこまでした。

参加された会員のなかには、又もう一度「丘友会号」に参加したいという要望も沢山いただいております。

次回の丘友会号は、参加されたみなさん方の心あたたまるサービスは、旅のムードを一層盛りあげてくださいました。

紀の松島をめぐり、一夜の宿「なぎさや」での生き造りに舌づつみをうちつつ、湯けむりにひたりながらの話題のやりとりは一段と熱をおび、夜の更けるのも忘れて若き日の語らいが続きました。

翌二十六日那智大滝へ向い、深い原始林を割って落ちる滝の落差に感動しながら、青岸渡寺への石段をのぼりました。

那智大社での祈願をあとに、おみやげを両手に新宮駅十二時四十二分帰路につき

母校の現況

規制と高校生

―「生徒指導」あれこれ―

生指担当　加藤友明

ここ数年亀高の生指を担当された先生方があい次いで亀高を去られた。

一九七七年まで生指主任をされた大西龍海先生は、亀高教頭を経て名張高校長、そして一九八四年春、定年退職された。次いで、一九七八～八〇年の三年間生指主任であった大谷仁先生は、亀高教頭を経て、今春、石薬師高校長に転出されたし、そのあとの生指主任を務められた木村斉先生も、この三月退職された。

大西、大谷、木村各先生とも、亀高在職期間の長いベテランで貫禄十分の先生で、安定した生指体制を築いてこられた。ところが、今年、急に亀高いずか七年目の若輩が生指の分掌を汚す次第となったのは、身に余る光栄の至りです。

昨今の「生指」という校内分掌は、生徒諸君にはもちろん、教師の間でも嫌われる役割です。それは、服装や頭髪の規定違反の生徒をみつけ出し、取り締るのが主な任務だと考えてくると、嫌がられるのです。

高校発足以来、一九六〇年頃までは「生指」とは、「生活指導」の略称でした。その後、「生徒指導」の略称として使われることが多くなってきました。

元来、学校でのすべての指導は、いうまでもなく「生徒指導」です。教科や生活、そして進学・就職もふくめて、入学してから卒業していくまでの、生徒のすべてを指導することが「生徒指導」です。生活指導は、その中で高校生の学校や家での生活の仕方や、人間としての生き方、自主活動の展開について、指針を与えるのが任務でしたが、多くの教師もこの仕事を積極的に引き受け、夢や希望、人生観、世界観を語り合うことに時間の過ぎるのも忘れるほどでした。

一九六〇年代の高校生急増期以降、「生指」が少しずつ変化をきたし、「生活指導」でなく「生徒指導」に変わってきます。多くの高校で「生徒心得」が定められ、服装規制も強化充実されてきます。

六〇年代までは普通だった男子の丸刈りは長髪要求運動となり、「帽子は必ずかぶるから」という条件で長髪が認められ、やがて、帽子も消えて、今では、男子までパーマをかけ、マユ毛を剃ったり、ヒタイの両角に剃り込みを入れたりしては叱られています。

ズボンについても、ある時は股引きのように細くして叱られた時もありましたが、今はダブダブに太くして、バンドもしないで、今にもズリ落ちそうな着方をしています。

かつては、長くしていたスカートを「短かくしなさい」でしたが、ミニスカートが流行したときは「長くしなさい」となり、今また「床上30センチ以上」に短かくさせています。肌色のストッキングは禁じられ「黒いストッキングをはきなさい」でしたが、今は、「黒はダメ、茶系統にしろ」となっています。「一体、何が正しいのか」といいたくなる生徒が出てこないのが不思議です。

伝統ある制服が定められた津のある高校で、男女共学化を機会に、服装は自由にして制服を廃止しようとしました。それまでで、いろいろな違反をしていた生徒たちは、こぞって喜ぶのかと思いきや、違反制服でめだつ子たちほど、制服廃止に反対なのです?! 実際に自由化された今、何ともいいようのない改造をしてきています。教師たちは、何とかして制服を着させないようにと頑張っているそうです。

高校生むけ雑誌には「いかに規則をスレスレに破るか」という記事を特集しているものもあります。若いエネルギーの一部が、「規制することへの、本能的?!無意識的?!な反抗となり、反抗となって、「規制破り」が生徒たちの間で流行っているのでしょうか? 「生指」は、このような発散エネルギーとの闘いを、今後もつづけなければなりますまい。

千の子どもに千の花

子どもは一人ひとり必ず美しい花の種子をもち、その種子をまき、咲かせるねがいを秘めている。早咲きもあれば遅咲きもある。

大輪咲きの子もあれば小輪咲きの子もある。花の色も形体も一様ではない。

私は去年も六月から七月半ばまで、非常勤講師としてお、亀山高校に勤務させていただいておりましたが、その期間中の六月のある日実に八年ぶりに、一つ年長で、幼少の頃より仲良くしていただいていた原美津子さんと再会しました。美津子さんは、英語の講師として亀山高校に勤務されていました。

亀高での勤務期間を終え私は十月より、今度は桑名市の中学校へ赴任することになりました。冒頭に挙げた文章は、赴任する前夜、認め、それを子ども達が書いたものです。

中学校の教壇に立ち一人一人の子供に向かって話し彼等の顔を見る毎日の中で私は、この美津子さんが言ったことです。そして、私達教師は、そのすべての子どもが持つ「よきもの」の存在を認め、それを子ども達が自分の人生に生かしてゆけるように、それをより可能性あるものと出来るように関わり、介添えしてやらねばならぬのだと思いました。

再びこの四月から、私は

母校の教壇に立って

葛西祐子

母校、亀山高校の教壇に立たせていただくことになりました。自分が亀山高校を卒業してから早や五年ぶりの年月が経過しているからからか、同じ学舎に学ぶ学生達の意識や趣向に、自分達が高校生だった頃抱いていた夢や希望とは何か異なるものを感じてしまうのは事実です。しかし尚教壇に立っている者は少なく、大学ぐらいは出ておかないとという安易な選択が目立ちます。その結果、学部学科で選ぶのではなく、現在の自分の学力に合った学校を選ぶことなり、簡単に妥協してしまいます。

大学、短大や就職の試験に失敗し、止むなく各種専修学校へ流れるのもこのような意識の表われでしょうか。進学専修学校は、社会に出てすぐに役立つ知識、技能の習得に重点を置いているので、入学後よく努力すれば力なりの成果を得られますが、大多数の学校は無試験で入学させるので軽い気持ちで入学し、過密な授業内容についていけず、脱落する生徒も少なくありません。

また、各種専修学校の内容は千差万別で、大学の専門課程に匹敵するものから営利本位のいかがわしいものまで様々です。華やかな宣伝にまどわされず、真の学校の内容をつかむのが難しい現状です。

地元志向の傾向も変っていません。大学、短大、専門学校のいずれも県内と中京地区に集中しています。大阪、京都方面がそれに次いで多く、少数ながら関東地区へも進学しています。特てつくづく思うことは、冒頭に挙げた言葉、それに他なりません。そしてまた教壇に立つ未熟者の私もまた何とかして一生をかけて一輪の花を咲かせようとしているのです。

人の進む道はそれぞれに違います。この亀山高校に学んだ卒業生の皆様方も、自分が望むように取捨選択しながら進んで来た道の途上にあって、それぞれにがんばっておられると思います。生まれてきた時に同時に天から授かった、心の中にあるただ一つの「一輪の花」を育て咲かせようと今日も努力しておられるだろうと、この亀山高校の職員室から見える梅雨の空をながめながら、考えております。

（五十三年卒）

部活動報告

ハンドボール部を率いて

顧問　松ケ谷光廣

亀山高校ハンドボール部の創設は、昭和27年、県内でも早くからの活動と聞きおよんでいます。以来30余年。時の流れに先輩諸氏の足跡と不断の努力が痛切に感じられてなりません。

昭和28年県高校大会3位、県選手権男子3位、女子2位。昭和40年には、春季大会において女子優勝。昭和50年男子県総体準優勝、地元三重国体には、少年男子の部に三重選抜チームの一員として三浦君が出場、活躍をしました。そして、昭和51年には、全国総体県予選会男子3位、県総体女子3位と輝しい成績を残しております。（記録は60年史より）又、過去県協会より優秀選手として表彰をうける選手など、諸先輩の活躍に敬意を表さずにはいられません。

最近の戦績は、54年春季大会において男女ともにベスト4、56年新人大会では女子3位、58年県高校秋季大会に男女ともに3位、59年春季大会では女子がベスト4という成績です。又、58年度には女子の有竹、佐野の両名が、国体一次強化選手として活躍。優秀選手として県協会より表彰されました。このように、女子においては年々、着実に成果をおさめるチームに成長してきました。また、しばらく低迷をつづけていた男子も、この二、三年急激な成長をとげ、優秀な選手を輩出するまでにいたっています。

現在、部員数男子14名、女子16名。ハンドボール競技がポピュラースポーツでないだけに、いささか少ない感がしないでもありません。多くの生徒の興味・関心も、なかなかハンドボールに目がむかないようです。しかし、激しさのなかに組みこまれる状況判断のむずかしさ、そしてシュートを決めた時の爽快さ・うれしさは、何といってもこのスポーツの魅力なのです。

中学校の時のハンドボール経験者も少なく、練習時間も十分でない現状の中で、選手がハンドボールの魅力と多くの喜びを得られるよう今後も努力していかなければと考えております。そのためには、日々の練習の積み重ねがすべてです。一つの失敗は、大きな反省材料に、一つの成果は、次のステップにと生かさなければなりません。それ故、積み重ねが大切なのです。それに、何より也続けるという姿勢、持続する力を欠くことはできません。くじけることだってあるでしょう。いやになることだってあるでしょう。そこで、これらのことを確めあい、支えあう人間関係もみのがせない要素です。生徒達が自分たちの目的にむかってとりくむ集団だからです。それに〝勝ちたい〟という欲求とは別に、生徒は、スポーツを通して多くの事柄を学ぶでしょう。そして、その一つ一つが血となり肉となって生徒自身の中につちかわれていってほしいものです。

諸先輩の築かれたハンドボール部の歴史の積み重ねを思っております。暖かい御指導、御助言を期待してやみません。

〈59年度県高校総体〉ウエイト部全国総体へ

定時制は卓球と柔道が全国へ

五月末から六月はじめにかけて、本年度の県高校総合体育大会が県下各地で開催され、母校からもハンドボール・ウエイトリフティング・バレーボール・バスケットボール・柔道・剣道・ソフトボール・バドミントン・テニス・陸上・卓球の各部が参加し活躍した。

その結果、毎年全国高校総体に出場しているウエイトリフティング部が、今年も六名の選手を全国総体に出場させることになった。

同部は、昨年、吉田茂君が全国で三冠王になるなど大活躍しているだけに、今年もあとに続けと、連日猛練習に励んでいる。

また、定時制では、卓球・バスケット・柔道・バドミントン・バレーボールの各部が定通制の県総体（県大会）に参加し、柔道部が団体と個人で、卓球部が個人で定通制の全国大会に出場することになった。

文化部も入賞をめざす

文化部では、吹奏楽部・放送部・演劇部が夏休み中に行なわれる県コンクール（合同発表会）に向けて練習を続けている。

なお吹奏楽部は昨年八月の全日本吹奏楽コンクール県大会大編成の部で銀賞を獲得、今年一月の県管楽器アンサンブルコンテストでは三グループが参加しいずれも銀賞を獲得している。また、放送部も昨年夏のNHKコンクール県大会のアナウンス部門で優勝、全国大会に出場した。

昭和58年度卒業生の進路

厳しい現実、安易な選択

西村栄二

昭和58年度の進学の状況についてみますと、国公立大学の合格がついに0となりました。これまで毎年一、二名の合格者を出して来たことを思うと残念です。しかし、これはある程度予想していたことです。中学校から亀山高校へ送られてくる生徒達はいくつかの教科に弱点を持っています。国公立大学は共通一次試験の関門を突破しなければならない。そのためには五教科七科目について平均点以上の学力を要求される、いわゆるオールマイティ形の生徒が適していますが、58年度はそのような生徒がいなかったと言えます。

進学は大学、短大、各種専修学校の別がありますが、各分野とも大きな変動はありません。大学では理工系ブームが続いていますが数年先までこの傾向が続く保障はないし、本当に理工系に向いていて、能力もある生徒ばかりではないのが気になります。

生徒達の進路選択の姿勢を見ると、強烈な志望動機を持っている者は少なく、大学ぐらいは出ておかないとという安易な選択が目立ちます。その結果、学部学科で選ぶのではなく、現在の自分の学力に合った学校を選ぶことなり、簡単に妥協してしまいます。

大学、短大や就職の試験に失敗し、止むなく各種専修学校へ流れるのもこのような意識の表われでしょうか。進学専修学校は、社会に出てすぐに役立つ知識、技能の習得に重点を置いているので、入学後よく努力すれば力なりの成果を得られますが、大多数の学校は無試験で入学させるので軽い気持ちで入学し、過密な授業内容についていけず、脱落する生徒も少なくありません。

また、各種専修学校の内容は千差万別で、大学の専門課程に匹敵するものから営利本位のいかがわしいものまで様々です。華やかな宣伝にまどわされず、真の学校の内容をつかむのが難しい現状です。

地元志向の傾向も変っていません。大学、短大、専門学校のいずれも県内と中京地区に集中しています。大阪、京都方面がそれに次いで多く、少数ながら関東地区へも進学しています。特に浪人生は首都圏の大学に合格し、健闘しています。

亀山高校の生徒は刺激が少ないためか、現役の時の勉強量が少なく、浪人をして初めて厳しい現実に気がつくようです。これを改善するためできるだけ早い時期から進路の目標を持たせ、勉強に励むよう工夫をしています。例えば、本校で編集した「進路のしおり」をこれまで二、三年生に配布して指導に役立ててきましたが、今年から一年生にも配布します。

現在の三年生は新教育課程で卒業する初めての学年です。58年度までの卒業生に比べて教科内容がレベルダウンしているため現役不利と言われています。私達も来年度入試の出題予想がしにくく困っています。何はともあれ生徒の実力を向上させるのが急務と考え、校内模試や進学補習を精選、充実させるよう努力しております。

思うに私が高校生の頃は進路情報が少なく、進路指導もそれほど親切であったとは言えません。今はかえって過保護であるような気がします。本来、大学はどうしても行きたい人が行く所で、そのための情報収集や勉強は自分で開拓すべきものだと思います。国立大学へ何名合格させたかで高校の優劣が決まり、大学は生徒の進路を送り込むかという実利面だけで評価され、受験産業が巨額の利益を得て肥大していくのは、どこか狂っていると、大切なものを忘れているように思えてなりません。私達の世代からみれば、現在の進路の実態は全く様変りしてしまったことを認めざるを得ないのです。

就職の方も状況はほとんど変化していません。景気はやや上向きに転じたと言われます。そのため今年は製造、流通販売関係で求人数の増加が期待されますが、各企業ともオフィスオートメーションの普及による自動化や合理化で体質改善をはかっており、求人が大幅に増加することは望めません。

例年、各企業から示される人数枠に従って校内選考をし、就職試験を受けさせますが、近頃は採用が増えており、本校でも採用試験不合格となるケースが少なくありません。就職は大学受験に比べてチャンスが少なく、時期も短期間に限定されるのでより厳しいと言えるでしょう。

企業は学業成績と同時にマナーや積極性・協調性といった資質も重視するので、その涵養を心がけています。しかし、このような好ましい資質は一朝一夕に得られるものではなく、永い時間をかけて育てねばならない。一年生の段階から言葉づかいやマナーに注意し、学業やクラブ活動に真剣にとり組む姿勢を養ってくることが必要です。

また、正しい職業感や将来の社会における自己の位置づけ、生きがいの追求などは進学、就職を問わず進路指導の重要な分野だと思いますので、今後はホームルームなどを活用して指導の充実をはかるつもりです。

一昨年から、地元の高校を良くしようとの気運が高まり、それに呼応して何度も中学校側と話合いの場をもちました。おかげで中学校の理解を得て、58・59度は地元中学出身者の割合が増加し、優秀な生徒が入学してくるようになりました。まことに喜こばしいことです。中学校や地域社会の期待にこたえ、活気のある亀山高校にするため、微力を尽したいと思います。

（進路指導主任・第七回卒業）

事務局より

▼昨年から「丘友会々報」は希望者だけに発送しています。新しく希望される会員はお申し込み願います。なお、五十三年卒・五十四年卒の会員は、来年度から希望者のみの発送（無料）となります。同封の申し込み用紙に印をして送って下さい。